

ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における 民具からみた日本移民の生活史の研究

期間：2019年4月1日～2022年3月31日

〔代表者〕 福澤一興（レジストロ日伯文化協会）

〔共同研究者〕

清水ルーベンス武（レジストロ日伯文化協会）

永井美穂（渋沢史料館）

脇岡明美（Instituto Federal de São Paulo - Câmpus
Registro）

吉村 竜（日本学術振興会／埼玉大学）

泉水英計（日本常民文化研究所）

共同研究「ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における 民具からみた日本移民の生活史の研究」を終えて

研究代表者 福澤 一興

1. 共同研究の目的

レジストロ植民地（旧海外興業イグアッペ植民地）は2016年に入植100周年を迎え、入植者家族も今では3世、4世が戸主となった。レジストロ市の人口は5万7000人に達し、リベイラ沿岸地方の中心都市に発展している。レジストロ植民地を記録した資料は多々存在するが、植民者の暮らし、とくに民具に関する資料は極めて少ない。そこで本共同研究では、農業を中心に植民者の暮らしについていくつかのテーマを設定して入植時からの変遷を明らかにすることを目的とした。さらに、これを複数の日系植民地との比較研究に展開することも目指した。一方、レジストロ植民地の歩みを明らかにする作業の一環として、移民史料館の展示・収蔵品に関する記録を作成し、移民史料館の充実をはかるという実践的な目的も目指した。

2. フォーラム開催と研究成果報告書

共同研究は2019年中こそ順調であったが、2020年に入るやコロナウイルス感染症が世界的に流行し、ブラジルでも外出を控えなければならなくなった。他の日系植民地への調査出張ばかりでな



写真1 マンジョカ粉作りの仕上げ乾燥



写真2 入植者の第二期住宅（沖山家）

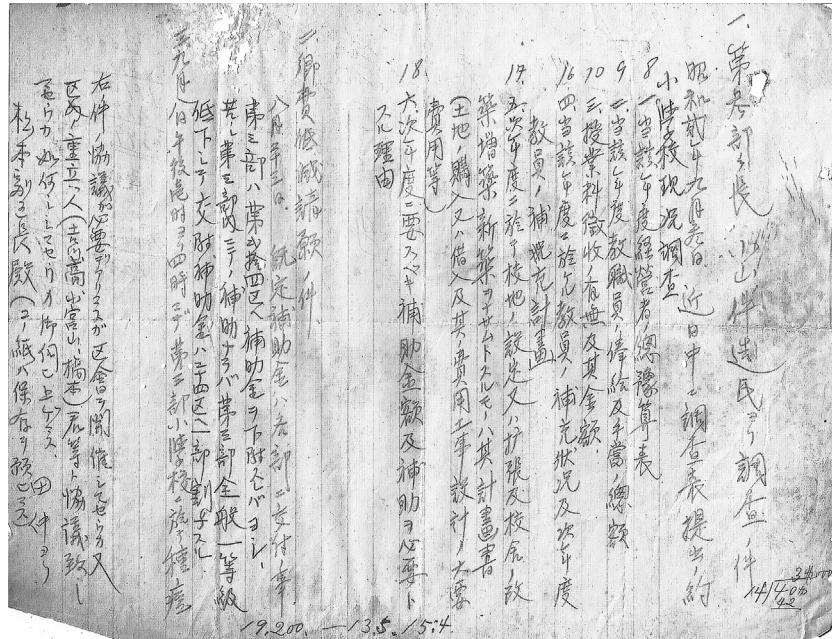


写真3 第三部 24 区の「部落会」記録

く、レジストロ市内のインフォーマント個人住宅の訪問も控えざるを得なくなり、史料館や図書館等の閉鎖が相次ぎ、文献調査もできなくなった。他の日系植民地の調査と、民具現物標本の収集及び収集民具に関する聞き取り調査は全面的に停止、2021 年に入っても再開できなかった。このような状態ではあったが、ブラジルでも日本でも共同研究のメンバーは、それぞれの研究課題の報告書作成を念頭に手持ちの資料の分析を進めた。共同研究開始以来、隔月で共同研究メンバーのオンライン会議をもっていたが、2021 年 8 月以降は毎月、オンライン会議を開き、頻繁に研究上の情報交換をおこなうとともに、口頭発表の準備を進めた。第 9 回共同研究フォーラム「ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における日本移民の生活史」、2021 年 11 月 6 日午前 9 時 30 分（ブラジル時間 5 日午後 9 時 30 分）よりレジストロ（日伯文化協会）と横浜（日本常民文化研究所）の 2 会場を設置しオンラインにて開催した。

発表者のうちブラジル生まれの 2 名はポルトガル語で口頭発表をし、他の 4 名は日本語で口頭発表をした。使用言語が二か国語となったため、サンパウロ在住の同時通訳を加え、両言語の切替えを繰り返す複雑な構成のオンライン会



写真4 聞き取り調査の様子



写真5 国際常民文化研究機構フォーラムチラシ



写真 6 国際常民文化研究機構フォーラムの様子

議となった。共同研究のメンバーひとりあたり 15 分という限られた時間で研究報告であったが、通訳の万全を期すために、口頭発表の原稿を事前に確定したことでスムーズな進行ができた。参加者数は 78 名であり、質問も予想していた以上に多く寄せられた。同時通訳があったために、ブラジル人の参加者も少なくなかった。日本とブラジルを結んだ有意義なフォーラムであったと考える。

なお、本フォーラムについては

11 月 30 日にブラジル唯一の邦字新聞「ニッケイ新聞」(2022 年 3 月より「ブラジル日報」に改称)の拡大版「樹海」に詳細な記事が掲載された(写真 7 参照。ニッケイ新聞「10 年越しのレジストロ調査 日本常民文化研究所の共同研究」2021 年 11 月 30 日 <https://www.nikkeishimbun.jp/2021/211130-column.html>)。

3. 成果

レジストロで研究を進めたメンバーが気づいたことのひとつとして、これまでは顧みられることの少なかったレジストロ植民地の歴史や、植民者の暮らしぶりに対する関心が一般住民の間に徐々にたかまったということがある。コロナ禍による外出制限が緩和された 2022 年に入ってから、家族アルバムや家族の歴史を伝える文書類を提供する住民が現れ、調査活動へ協力を惜しまない住民も現れた。将来のレジストロ植民地の在り方を考えるとき、このような住民の意識の変化は本共同研究のおおきな成果といってよいであろう。

民具に関しては、新規の現物資料の収集は断念し、史料館(MEMORIAL DA IMIGRAÇÃO JAPONESA VALE DO RIBEIRA、リベイラ沿岸日本移民史料館)の収蔵品に作業を集中した。史料館の収蔵品は、博物館に求められる記録がほとんど作成されていなかったからである。本共同研究によって史料館収蔵品の台帳を作成し、各収蔵品について一律に設定した 21 項目について詳細な記録を残す作業を開始した。現在も史料館の職員によりこの台帳記入作業は継続中である。収蔵品の記録が充実し今後の史料館運営に役立つことが期待できる。これまでの台帳記録から、史料館に収蔵されている民具はその種類が少ないことが分かっており、将来の課題を示すこともできた。

他の日系植民地での調査と比較研究についてはコロナ禍の為に中断せざるをえなかったが、住宅に関しては植民地造成時の条や、先住民の影響について一定の比較研究をおこなうことができた。

その他、入植者の農業、日々の暮らし、現存する文献に関しては国際常民文化研究機構の叢書として報告書を刊行した。

4. 叢書

共同研究班員、それぞれが研究課題を担当したので掲載論文も 6 項目であり、このうち 2 論文は原文がポルトガル語であるので全文を日本語に翻訳、さらにブラジルの研究者向けに、日本語論文の概要をポルトガル語訳で併記した。このため頁数は 224 頁となった。



写真 8 リベイラ沿岸日本移民史料館館内

17- Histórico do objeto antes da pesquisa ou registro: quem fez, quando, como, para que e onde foi usado (País, cidade):		21- Histórico de uso: Exposição e histórico de viagens: (Evento / data) CURADOR: 2. 07/2016	
1- Número do objeto: 215	3- Nome do objeto: COLEÇÃO DE DISCO DE VINIL (11 DISCOS)	4- Acessórios: CONTÉM 11 DISCOS DE VINIL	
2- Número anterior do objeto: 104	5- Data da entrada (criação do cartão): 15/04/2021	6- Nome do objeto em japonês (escrito em romaji, kanji) ou nome chamado:	7- Quantidade: 11
8- Produtor: PRAÇA VICTOR-RÁDIO S/A		9- Local de produção: SÃO PAULO	12- Material: PAPEL, METAL PLÁSTICO
10- Ano de produção:		11- Medidas: ALTURA: 70CM LARGURA: 27,5CM FUNDURA: 39CM	
13- Proprietário / Doador <input checked="" type="checkbox"/> Memorial da Imigração Japonesa Vale do Ribeira <input type="checkbox"/> Outros <input checked="" type="checkbox"/> Doador Data de doação _____ (Nome) AKIRA SHIMADA (Endereço) RUA SIRE- NANDO DE CARVALHO 101 JDM DAS PAL- MEIRAS - REGISTRO SP CED: 11.900.000 (Tel.) (13) 3822-2491	14- Estado de conservação (peça danificada etc.): REVESTIMENTO DO ALBUM DANIFICADO PAPELADO ONDE GUAR- DAM OS DISCOS COM RASURAS. PARTE DE DENTRO DO ALBUM ESTÁ MANCHADO	15- Informação de texto: ALBUM ELITE	
18- Usuário (escreva em detalhes sobre o usuário. Relacionamento):		16- Fotos:	
19- Referência (sobre os materiais e seus arredores):		20- Observações (tratamento, reparação, fumigação etc.): NÃO FOI FEITO REFARDO	

写真 9 リベイラ沿岸日本移民史料館収藏品台帳

5. 課題

今後の課題として、叢書をブラジルの研究者がひろく利用できるように、ポルトガル語版の作成が必要であろう。その際には、資料となった日本語の文献（契約原簿その他の現地で継承された文書）のポルトガル語への翻訳も望ましい。

第2の課題として、日本から移民により持ち込まれたさまざまな文化が現地の人たちに及ぼした影響に関しての研究がある。本研究では、日本からの入植家族がいかに現地に暮らしを合わせてきたかが焦点であったが、いわばその逆の視点からこの文化接触を描く試みである。

民具に関しては、中断を強いられた現物資料の収集と聞き取り取材を再開し、植民者の生活誌記録とともに史料館所蔵品の充実を図りたい。

農業形態の変遷については、本共同研究では、旧植民地の行政単位であった部のレベルで考察したが、一方で市街化が進み、他方で放置された耕地が森林に戻りつつあるいま、耕地ごとの土地利用の変遷について詳細な記録を作成する最後のチャンスである。これは、植民地の成り立ちを鮮明に浮



写真 10 レジストロ入植 20 年および入植 100 年を記念するアルバム
（上 『伯刺西爾国イグアッペ植民地創立廿周年記念写真帖』、
下 Centenário Colonização Japonesa）

かび上がらせるために是非必要な作業でもある。一方で、レジストロ植民地の成立ちの特色を明らかにするためにも、他の日系植民地との比較研究は早晚実施しなければならないとかんがえている。

6. 総括

以上簡単ではあるが本共同研究の概要を記述した。残された課題も少なくないが、植民地の開設から今日のレジストロ市の発展に至る経緯の一端は紹介できたとかんがえる。この共同研究がレジストロ植民地への関心と呼び起こし、今後、さらなる郷土の歴史の探究やレジストロを対象とした学術研究を導くことが期待される。

7. 感想

筆者が日本からレジストロに移り住んですでに半世紀が過ぎたが、この地になじむようになったのはここ数十年ほどのことである。それが自然な推移であったのか、生活サイクルの変化が原因であったのかはさておき、今回の共同研究のなかで海外興業が作成した植民地分譲にかかわる契約原簿を繰り返し、繰り返し調べていると、それぞれの家族の入植時の状況、そして入植先耕地で踏み出した生活の第一歩、その後の生活の変遷がはっきりと目に浮かぶようになった。そのことによって、今住んでいるレジストロという土地への愛着が徐々に深まるとともに、植民地時代のレジストロに関する関心がさらに大きく膨らんでいった。このような植民地時代への関心の高まりは、筆者のみでなくレジストロ在住の他の二人のメンバーにも共通していた。

今回私どもの共同研究課題を採用してくださり、さまざまな時点において惜しみないご教授、ご指導を賜った国際常民文化研究機構、並びに関係各位に心より感謝の意を表して最終報告を結ぶ。

■ 2021 年度の活動

- 第9回共同研究フォーラム「ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における日本移民の生活史」2021年11月6日 福澤一興・脇岡明美・清水ルーベンス武・永井美穂・吉村竜・泉水英計 オンライン開催
- 『ブラジル国サンパウロ州レジストロ植民地における民具からみた日本移民の生活史の研究』神奈川大学日本常民文化研究所調査報告 第30集（国際常民文化研究機構 共同研究〔奨励〕調査報告書）2022年3月15日